



「進んで学習する」を飾りだけの言葉にしたくない

H29. 9. 20

こんにちは。住吉小学校の坂井です。

今回は、住吉小学校の教育目標の二つ目の要素「**進んで学習する**」について、一緒に見ていきたいと思います。

保護者の皆様も私ども学校の職員も、子どもたちが意欲をもち「進んで学習する」姿を願っています。このことは、目の前の子どもたちが思うように動いてくれないといったことを感じているからかもしれません。また、子どもたちの将来を考えたときに、進んでも物事に取り組み、自分の人生を切り開いていってほしいとの期待感があるように思います。

ところで、毎日の学校生活では、「進んで学習する」を意識して子どもたちの様子を見てみると、この言葉に合致するたくさんの姿に出会うことができます。ここ1, 2週間の出会いを紹介します。



来月初旬のマラソン記録会に向け、ロング休みには自主的な練習を促しています。グラウンドコンディションがよくないため、全体としては中止の放送が流れたのですが、どうしても走りたいという子が、乾いたところで練習をしていました。



その傍らでは、一心不乱に虫探しをしている子どもたちがいました。生活の学習の延長でしょうか。虫探しは、学習時間と遊び時間をつないでくれる活動のようです。



昼休みには、委員会の担当児童が空缶つぶしや掃除(水曜日)をしています。当番とはいえ、一生懸命にやっていて、いつも、ありがとう、すごいなと思っている光景です。



2年生の教室では、3人の男の子が「お笑い」を披露していました。観客も一緒に楽しそうです。進んで活動する姿そのものです。学ぶことも多いように感じました。

学力

picta.jp - 33599680

上で紹介した写真は、子どもたちが進んで取り組んでいる様子ですが、学習時間ではありません。「係の仕事か」「ただの遊びか」と思わないでください。学校でのどの活動も、子どもたちが進んで活動し、楽しさややりがい、充実感を感じることができる大切な時間です。

一方の学習時間は、子どもたちに好きなことを自由に行わせることはできません。学習内容が定められているからです。指導者は、いかに子どもたちが意欲をもって学ぶようにするかに腐心します。そこで、授業時間と遊び時間がつながるよう工夫をすることがあります。低学年では、教科の壁を取り払って指導することもあります。また、活動の内容と方向を焦点付けるために、学習時間の始めに、タイミングをみて学習が勢い付く課題を提示します。

教育目標の言葉は、「進んで学習する」ですが、私どもは学習時間を含めた学校生活全体を視野に入れています。遊び時間に進んで活動したり、友達と協力して物事を成し遂げようとすることは、学習時間にも生きてきます。また、授業で学んだことは、生活の中で試してみる事が多くあります。

ところで、学校において身に付けようとしている「学力」は、現在は法律で次の3点で説明されています。**①基礎的な知識及び技能 ②これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力 ③主体的に学習に取り組む態度** (以上学校教育法30条)

報道等でご存知の方もおられるかと思いますが、小学校では来年度から新しい学習指導要領に基づいた指導が先行実施されます。その学習指導要領には、③の学習態度に関わる目指す資質・能力について、「**学びに向かう力、人間性等**」とあります。当校の教育目標の一つの要素「進んで学習する」は、「**学びに向かう力**」と重ね合わせてとらえ、学習時間を中心とし、全教育活動の関わりの中で育みたいと考えています。

話が難しくなってしまいました。

「進んで学習する」は、学力の重要な要素です。ただし、学校だけで実現できるものではありません。ご家庭でのことやご家庭との協力があって可能になるものと思います。次号では、そのことについて取り上げます。

.....

5年生は、明日から体験教室(乙にある「少年自然の家」)に出かけます。学校での様々な時間を使って、準備を進めてきました。子どもたちは、教育目標「助け合い、進んで学習するたくましい子ども」の姿をたくさん見せてくれることでしょう。

